

石狩湾系ニシンの漁況予測

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場

平成23年11月10日

平成24年1～4月における、石狩湾系ニシンの漁況を以下のように予測する。

【予測】

1. 漁獲量は前年並となる。
2. 魚体は、漁期前半については6年魚（2006年級）が主体。漁期後半は3年魚（2009年級）が来遊する。
3. 来遊は1月の漁業の開始から3月まで続く。

【説明】

前漁期（2011年春）の好漁を支えた2006年級と2008年級は、漁獲および自然死亡によって資源尾数の減少がすすむため、それらの漁獲量は減少すると考えられる。一方、秋期のトロール調査で2009年級の採集数が2006年級、2008年級を大きく上回っており（下図）、その来遊が期待できる。なお体長組成から、2009年級のすべてが刺し網（目合い2寸以上では、基本的に尾叉長25cm以上が漁獲される）の漁獲対象とはならないと考えられる。以上を総合して、2012年の沿岸におけるニシン漁獲量は前年並と考えられる。

沿岸の刺し網漁業では、産卵のために来遊する親魚を対象としている。その来遊は魚体が大きなものほど早い傾向があるため、漁期前半には6年魚となる2006年級が漁獲の主体となり、漁期後半に3年魚である2009年級が来遊するものと考えられる。

漁獲の対象が6～3年魚の複数の年齢構成となると予想されることから、来遊は1月の漁業の開始から3月まで続くと考えられる。

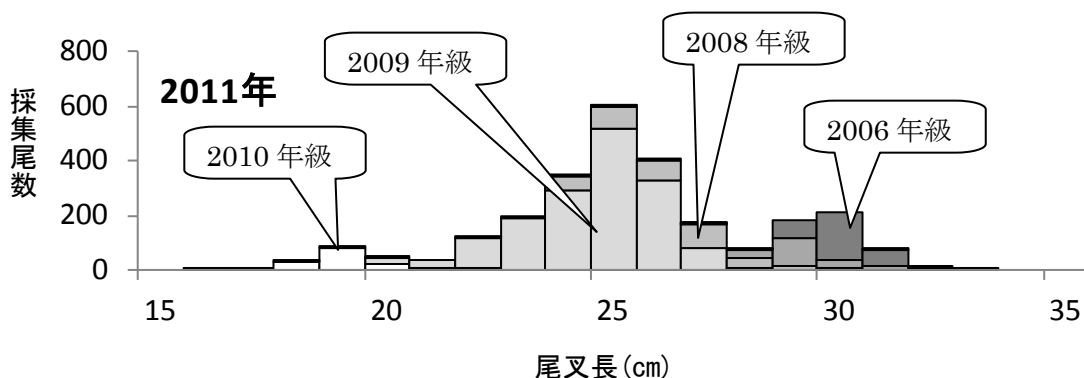


図 2011年秋期に試験調査船「北洋丸」で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成